



学校だより

東京都立府中けやきの森学園
〒183-0003 府中市朝日町 3-14-1
TEL 042-367-2511 FAX 042-369-8476
<https://www.fuchu-keyaki-sh.metro.tokyo.jp>
令和8年6月30日(火)発行 第4号

つなぐ歩み、未来への挑戦—W杯日本代表の姿から学ぶ—

副校長 福永 顕

本年6月12日に、サッカーワールドカップが開幕しました。4年に一度の大舞台において、選手たちはそれぞれの国の威信を背負い、これまで積み重ねてきた成果を発揮しようと、チーム一丸となって勝利に向かい全力で取り組んでいます。その姿は、多くの人々に感動を与え、私たちは惜しみない拍手と声援を送っています。

日本代表も、1993年のいわゆる「ドーハの悲劇」を乗り越え、約30年の歳月を経て、現在ではワールドカップ常連国として世界の舞台で確かな存在感を示すようになりました。この歩みは決して平坦なものではなく、多くの挑戦と努力の積み重ねの上に成り立っています。そして、その成長は、選手や指導者だけでなく、地域や社会全体の支えがあってこそ実現してきたものといえるでしょう。

このことは、特別支援教育の歩みにも重なるものがあります。平成19年(2007年)の特殊教育から特別支援教育への転換以降、この20年で制度や環境は大きく変化してきました。障害のある児童・生徒を取り巻く環境は、学校だけでなく、保護者や地域の皆様、福祉・医療関係機関をはじめとする多くの方々の力によって支えられ、着実に前進してきたと感じています。

一方で、津久井やまゆり園の事件のように、私たちが決して忘れてはならない出来事もありました。こうした現実に向き合いながら、人権への意識をより一層高め、誰もが尊重される共生社会の実現に向けて歩み続けることが求められています。

これまでの20年の歩みは、確かな成果として今に示されています。同時に、そこには先人たちの思いや努力の積み重ねがあります。私たちはその思いをしっかりと受け止め、これからの10年、20年先を見据え、何ができるのか、何をすべきかを教職員一同で考え、より良い教育の実践に努めてまいります。

ワールドカップにおける日本代表のさらなる活躍を願うとともに、本校においても、子供たち一人一人の成長を支える教育をこれからも着実に推進してまいります。

お問合せ

御連絡は、下記までお願いいたします。

◇平日(午前7時45分から午後6時まで) 042-367-2511 (学校代表番号)

ダンス発表を通じた学校間交流

知的障害教育部門小学部教諭 田村 あい

知的障害教育部門小学部2、3年生が、6月5日（金）と9日（火）の2日間で学校間交流を行いました。府中市立府中第四小学校の3年生が本校に来校し、一緒にパラバルーンの活動をしたり、お互い練習してきたダンスを発表し合ったりしました。府中第四小学校のフラッグを使った表現とダンスに「格好良いね。」と見ている本校の児童が感想を伝えてくれるなど、迫力のある発表に注目をしている児童がたくさんいました。本校の児童は、音楽で取り組んでいるスカーフを使ったダンスを披露しました。最後に皆でパラバルーンを一緒に持ち、音楽に合わせて歩いたり、上下左右に動かしたりしました。笑顔でパラバルーンを楽しむ児童が多かったことがとても印象的でした。短い時間でしたが、お互い良い交流の時間を共有することができました。終了後は、「またね～」と手を振ったり、タッチしたりしながら第四小学校の皆さんを見送りました。



立川防災館で得ることができた学び

知的障害教育部門中学部主任教諭 三ヶ田 純平

知的障害教育部門中学部1、2年生が、6月9日（火）に立川防災館へ校外学習に行ってきました。学校で繰り返し練習してきた避難訓練の経験を生かし、地震発生時の身の守り方や火災時の避難方法など、実践的な活動を通して学んできました。体験的な活動を通して防災に関する知識を学び、災害に対して怖がるだけでなく、まずは自分の身の安全を確保したり、その後で自分でできることを知ったりすることができた、とても良い機会になりました。

初めて触る消火器や煙で視界が遮られた空間に驚きながらも、職員の方の話に真剣に耳を傾け、多くの質問をしている生徒もいました。救出救助体験では崩れた家の中にいる救助者を、一生懸命体を屈めて探す姿が印象的でした。



進路について考える～事業所見学～

肢体不自由教育部門中学部主任教諭 佐藤 英樹

肢体不自由教育部門中学部3年生では、毎年進路学習の取組の一つとして「事業所見学」を実施しています。今年度は、6月17日（水）と19日（金）、24日（水）の3回に分けて、三か所の事業所を見学させていただきました。見学先として、Aグループ（準ずる教育課程）は「東京外国語大学」、Bグループ（知的障害を併せ有する生徒の教育課程）は、「調布市知的障害者援護施設 すまいる」、Cグループ（自立活動を主とする教育課程）は「調布市社会福祉事業団ディセンター まなびや」を見学してきました。それぞれの見学先で、本校を卒業した先輩たちの活躍の様子を学び、自分自身の将来について考えることができた、とても良い機会となりました。



東京マイタイムラインセミナー

肢体不自由教育部門高等部教諭 上山 栞里

知的障害教育部門高等部教諭 川崎 佑斗

肢体不自由教育部門及び知的障害教育部門それぞれの高等部1年生を対象に、「東京マイタイムラインセミナー」を実施しました。

本セミナーは、東京都総務局総合防災部防災計画課およびN T Tデータの協力のもと実施され、災害への備えについて学ぶ貴重な機会として設定しています。今回の講義では、風水害など身近に起こり得る災害について理解を深めるとともに、ハザードマップの見方を学び、自分たちの住む地域の危険性や避難行動について考えました。さらに、VR（仮想現実）を活用した体験では、大雨や水害の発生状況を、臨場感をもって体感することができました。映像を通して危険箇所や安全な避難経路について具体的に理解することができ、生徒たちは災害時の様子をより現実的にイメージすることができました。

今回の学習を通して、生徒たちは「自分の命は自分で守る」という防災意識を高めるとともに、日頃から備えることの大切さを改めて実感することができました。

今後の生活の中で、学んだ内容を生かした行動が期待されます。



I C T機器やデジタル端末を活用した授業

～肢体不自由教育部門高等部・知的障害を併せ有する教育課程での実践～

肢体不自由教育部門高等部学部主任 主任教諭 平田 愛子

肢体不自由教育部門高等部では、各グループの学習場面や目的、必要な支援に応じて、I C T機器やデジタル端末を活用した授業を行っています。今回は、知的障害を併せ有する教育課程（Bグループ）の実践を紹介します。

B2グループは、今年も畑での野菜づくりに取り組んでいます。5月の晴れた日には、オクラの苗を植えました。生徒は自分たちで穴を掘り、苗を丁寧に植えて水やりを行い、土の匂いや感触を感じながら、「自分たちで育てる」という実感をもつことができました。その後も水やりや観察を続けています。気温の高い日には、写真や映像で振り返る活動を行い、「映像の中のオクラ」と「自分たちが植えたオクラ」とが結び付き、興味・関心をもって学習に取り組む様子が見られます。

B1グループは、美術の授業でエプロンにプリントするデザインを考えました。タブレット端末を活用し、色や形を簡単に変えながらイメージをすぐに反映することで、多くの魅力的なデザインが生まれました。どの作品が採用されるかは、二次元コードから投票を行い、その結果をもとに決定する予定です。

I C Tの活用により、活動を円滑に進めるとともに、学びを継続的に深めています。



～知的障害教育部門高等部2年生の取り組み～

知的障害教育部門高等部2学年主任 主任教諭 山田 由佳

知的障害教育部門高等部2年生では、各授業においてI C T機器を活用し、生徒の皆さんの主体的な学びに繋がるよう、教材の工夫や改善を行っています。なかでも音楽の授業では、一人一台端末を積極的に活用しており、デジタル楽器アプリを使用したコード（和音）の学習に取り組んでいます。

このアプリでは、コードが書かれた楽譜を見ながら、デジタル楽器を演奏します。また、生徒の皆さんが親しみのあるポップスの曲を扱うことで、より意欲的に授業に参加する姿が見られます。ピアノの演奏経験の有無に関わらず、全員が自分の力で伴奏を奏でることができ、その音色に合わせながら自然と歌詞を口ずさむなど、表現活動を楽しむ姿も見られます。

今後も様々な授業において、効果的なI C T機器を活用した教材研究に取り組み、生徒たちの学びがより豊かなものになるよう努めていきます。



防災教育を推進します

生活指導主任 主幹教諭 吉田 久明

本校では、児童・生徒一人一人が災害から自らの命を守り、周囲と協力して行動できる力を育むことを目的として、防災教育を本校の教育の重要な柱の一つとして位置付けています。その中心となる組織が「防災教育推進委員会」です。

本委員会には、校長、副校長をはじめとする管理職や生活指導部の教員に加え、保護者や地域、関係機関の皆様にも御参加をいただいています。外部委員として、自治体の防災担当部署、消防署や警察署、公園管理機関、福祉施設関係者、町会、青少年育成団体、PTAなど、地域の多様な立場の方が参画しており、専門性や現場の経験を生かした視点から御意見をいただいています。

今年度は5月に第1回委員会を開催し、本校の防災体制や年間の防災教育の方針について共有しました。また、避難訓練の見学をしていただき、児童・生徒の避難行動や教職員の対応について実際の様子を確認し、その後、委員の皆様と意見交換を行いました。協議の中では、災害時の安否確認の方法や校内での情報伝達の在り方、避難経路の安全確保、放送設備が使用できない場合を想定した対応などについて具体的な御助言をいただきました。また、トランシーバー等の機器活用や備品の整備、校内環境の安全対策についても検討を進め、日頃からの備えの重要性を改めて確認しました。

本校では、こうした委員会での検討内容を踏まえ、より実効性の高い防災体制づくりを進めています。今後も地域や関係機関との連携を大切にし、防災教育の一層の充実に努めるとともに、安心・安全な学校づくりを進めてまいります。

児童・生徒が安心して学校生活を過ごすために

生活指導主任 主幹教諭 吉田 久明

本校では、児童・生徒一人一人が安心して学校生活を送ることができる環境づくりを推進するため、「学校いじめ対策委員会」及び「学校サポートチーム」を設置し、日常的な見守りと支援体制の充実に取り組んでいます。

学校いじめ対策委員会では、いじめの未然防止や早期発見・早期対応を基本とし、児童・生徒の様子について教職員間で適切に情報を共有するとともに、それぞれの状況に応じた支援や関わり方について組織的に検討しています。私たち教職員は、常に児童・生徒の小さな変化に注意を払い、気になる様子が見られた場合には、すぐに情報を共有しあい、早い段階からチームとして対応できるよう努めています。また、定期的に委員会を開催し、これまでの対応を振り返りながら、より適切な支援の在り方について協議することで、教職員の対応力の向上にもつなげています。

さらに、学校サポートチームにおいては、校内の取組に加え、地域や関係機関と連携しながら、児童・生徒を多面的に支える体制づくりを進めています。校内のみで課題を抱え込むことなく、必要に応じて専門的な立場からの助言を得ることで、より適切で継続的な支援の実現を図っています。こうした連携は、児童・生徒の安心感を高めるとともに、健やかな成長を支える基盤となるものです。

今後も、学校・家庭・地域が相互に連携しながら、児童・生徒が安心して過ごせる学校づくりを着実に推進してまいります。保護者の皆様におかれましても、お子様の様子でお気付きの点や御心配なことがございましたら、遠慮なく学校まで御相談ください。引き続き、御理解と御協力をお願い申し上げます。

第 27 回東京都障害者スポーツ大会報告

知的障害教育部門球技部（ソフトボール）

球技部ソフトボール部門顧問 教諭 小林 雅弥

5月17日（日）、東京都障害者スポーツ大会ソフトボール競技に、知的障害教育部門高等部の生徒7名が出場しました。東久留米特別支援学校との合同チームでの参加となり、仲間と力を合わせて試合に挑み、見事3位となりました。

第1試合は羽村特別支援学校と対戦し、打線がつながり得点を重ねる場面が見られました。

第2試合は南大沢学園と対戦し、相手の好守に阻まれましたが、昨年度のティーボール大会での課題であった「守備」において、練習の成果が発揮され、バッテリーを中心に相手の攻撃を粘り強く防ぐことができました。

気温の高い中でも、チームメイトを懸命に応援する姿や最後まであきらめずに戦い抜く姿が印象的でした。今回の経験を生かし、今後もさらなる向上を目指して練習に励んでいきます。

保護者の皆様からも多くの御声援をいただき、誠にありがとうございました。

肢体不自由教育部門パラスポーツ部（ボッチャ）

パラスポーツ部ボッチャ部門顧問 教諭 多久 真矢

5月23日（土）、東京都障害者スポーツ大会ボッチャ競技に、肢体不自由部門の中学部4名、高等部1名の生徒が出場いたしました。

今大会は個人戦で行われ、本校の生徒は「座位の部」「立位の部」それぞれの部門に参加し、一人一人が一投に思いを込めて競技に臨みました。立位の部で4位に入賞した選手、座位の部でベスト8まで勝ち進んだ選手、また1勝を挙げることができた選手など、それぞれが緊張感のある中で、日頃の練習の成果を発揮しようと懸命に挑戦する姿が見られました。普段とは異なる会場や雰囲気の中でも、最後まであきらめずに粘り強く取り組むことができました。また、選手同士で励まし合い、互いに応援する姿や他校の選手との交流も見られ、大変充実した一日となりました。今後も日々の練習を積み重ね、仲間とともに切磋琢磨し、様々な大会に挑戦してまいります。

今後とも温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

肢体不自由教育部門パラスポーツ部（陸上競技）

パラスポーツ部陸上競技部門顧問 主任教諭 齊藤 健夫

5月30日（土）、駒沢オリンピック公園総合運動場で第27回東京都障害者スポーツ大会陸上競技に、肢体不自由教育部門中学部と高等部から計4名の生徒が出場しました。

出場種目は50m走、100m走、1500m走、ソフトボール投げに挑み、厳しい暑さの中でも日頃の練習の成果を発揮し、金メダル3個、銀メダル1個を獲得することができました。

今後もスポーツの楽しさを大切にし、生徒にとって実りある経験となる機会を提供してきます。

